

連載・海外便り（その6）

タイの食品・産業事情

食品流通アドバイザー

田中技術士事務所 代表 田中 好雄

タイは民族国家成立以前、中国河南に住んでいたタイ民族が、インドシナ半島を南下して現在のタイの位置に定住するようになったと言われている。1967年に東南アジア諸国連合（ASEAN）に結成当時から加盟し、この頃から日本や欧米諸国の大企業の進出を背景とした本格的な工業化へのシフトを進めるとともに、高度経済成長が始まり、バンコクなどの大都市を中心に道路・交通網などインフラの整備も急速に進んできた。

対日輸出上位10品目（2010年）を見るとコンピュータおよび部品、乗用車及び部品・付属品、ゴム、集積回路、鶏肉加工品、魚介類加工品、プラスチック製品、化粧品・石鹸・スキンケア用品、その他電気機器及び部品、機械及び部品があげられ、総輸出額は約1,953億米ドル（1兆6,200億円/前年比28%）。また、対日輸入上位10品目によると機械及び部品、鉄鋼及び鉄製品、自動車部品・付属器具類、金属加工製品、プラスチック製品など多岐にわたり、総輸入額は約1,824億米ドル（1兆5,139億円/前年比36%）である。

タイはASEAN諸国の中核として、世界の台所(Kitchen in the World)を目指して内需拡大、輸出振興を政策課題として推進している。豊富な労働力と恵まれた気候風土、インフラが整備されていることなどを背景に農・水・畜産物に付加価値を付け、商品化するための努力を産・官・学をあげて取り組んでいる。水産製品としてはエビ、イカ、近海魚(イトヨリダイなど)を原料とした冷凍食品を生産している。農産物としては、アスパラガス、タマネギ、オクラなどの生鮮野菜、枝豆、インゲン豆などの冷凍野菜類、パイナップル缶詰、ドライマンゴ、漬物、春雨などがある。畜産製品としてはブロイラーを原料とした焼鳥、唐揚げ、照り焼き、竜田揚げなどの冷凍食品があげられ、これらは日本へ輸出されており日系企業が現地生産をしている。

“サワディカップ”（今日は!）で始まる挨拶、ここタイの人々は“ほほえみの国”と言われ、に両手を合わせて感謝の気持ちを表す。「屋台文化」が定着しており、多くの人々は外食を主とし皆が寄り集まって仲良く食事を摂る習慣があり、ポリエチレンパウチをテイクアウト用の容器として常用している。騒音と喧騒、交通渋滞、歩道にあふれる仮設店舗、ビルの建設作業が日常化している活気のある街、また「エメラルド寺院」に代表される風光明媚な観光名所の数々、安価で美味しいタイ・和・洋・中華食などメニュー豊富なレストラン群、車で30分も飛ばせば安価で美しい景観とプレーが堪能できるゴルフ場、街中至る所にあるコンビニエンスストア、スーパーマーケット、ATM、Money Exchange、市内を走る便利で快適なスカイトレイン(BTS)と何をとっても魅力のある街、天候も安定しており、時たま降るスコールも暑さを忘れさせいつの間に止んでいる。世界の国々の人々がこの街に集まって来るのは、”何か不思議な魅力を持つ場所”だからなのだろうか？

□



躍進著しいタイ産業事情